

平成 28 年 6 月 13 日現在

機関番号：32696

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2013～2015

課題番号：25370801

研究課題名(和文) 清浄光寺新出史料を中心とした関東拠点寺院における中近世移行期交流史の基礎的研究

研究課題名(英文) Foundational Research on the Interaction of People and Objects during the Time of Transition between the Medieval and Early Modern periods: Recently Emerged Materials from Syoujoukou-ji Temple

研究代表者

佐々木 俊道 (SASAKI, syundo)

駒沢女子大学・人文学部・教授

研究者番号：90259028

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,900,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では、従来残存史料は乏しいとされてきた時宗総本山清浄光寺より、近年発見された新出中近世史料の調査、整理、翻刻、公開、ならびに秋田県公文書館、富山大学附属図書館、行田市郷土博物館等で関連史料の収集、整理、翻刻を行った。この結果、清浄光寺所蔵中近世史料及び関連史料は、中近世移行期における関東拠点寺院を中心とした人・モノの交流史を解明する研究において、きわめて有効な史料群であることを指摘した。

研究成果の概要(英文)：This research project established a firm basis for our understanding of an array of newly discovered historical materials from the Head temple Ji-sect Syoujoukou-ji and considered the interactions of people and objects which may be discerned from those materials. Few extant historical materials linked to Syoujoukou-ji have heretofore been known to scholarship. This project has examined, transcribed and organized these Medieval and Early Modern materials and engaged in the gathering, organization and transcription of related historical materials held at other institutions such as the Akita Prefectural Archives, University of Toyama Central Library and Gyouda City Museum. The project has concluded that the Medieval and Early Modern Historical Materials in the Syoujoukou-ji collection and related materials are an extremely important source for the elucidation of the interaction of people and objects during the time of transition between the Medieval and Early Modern periods.

研究分野：仏教史

キーワード：交流史 寺院史 中世史 近世史 史料研究 時宗 清浄光寺

1. 研究開始当初の背景

東海道の古刹として親しまれた神奈川県藤沢市の時宗総本山清浄光寺は、全国時宗(時衆)教団の中心であり、浄土門の関東拠点寺院である。また全国を遊行し教化をおこなっていた遊行上人のいる寺「遊行寺」としても親しまれてきた。遊行上人は、天皇家、幕府の將軍家、各地の有力武士や寺社との交流を行い、その記録は本山である清浄光寺に集約されてきたと考えられる。しかし、清浄光寺の史料群は近代以降の度重なる火災と大正12年(1923)の関東大震災等により、その多くは失われ、現在伝えられている史料は焼け残ったわずかな史料であると考えられてきた。これまで清浄光寺の中近世史料は、1970年代に行われた藤沢市史や神奈川県史等の自治体史編纂における調査研究において、本格的な悉皆調査が行われず、それらの史料集では、特に中世史料については、すべて東京大学史料編纂所所蔵の影写本を元に、翻刻・紹介されている。この結果、清浄光寺の中世史料の原本はすべて失われてしまったとみられてきた。

近年、清浄光寺付属施設である遊行寺宝物館の再整備により、中近世史料が多数発見されてきた。その中には、藤沢市史等では東京大学史料編纂所影写本を底本に翻刻・紹介された史料の原本も含まれていた。

そこで本研究グループでは、今回、清浄光寺新出中近世史料を中心に、周辺関連史料も含めて調査・翻刻することを通じて、関東拠点寺院としての清浄光寺から見えてくる人とモノの交流史を解明するための基礎データの構築を進めてきた。

2. 研究の目的

本研究は、時宗総本山清浄光寺より発見された新出中近世史料を中心に、原本調査・整理・翻刻・公開をおこない、中近世移行期における関東拠点寺院を中心とした人・モノの交流史を解明する為の基礎的研究を目的とする。

関東拠点寺院としての清浄光寺の史料群は、近代以降の火災と震災の為、残存史料は乏しいとされてきた。近年、清浄光寺の付属施設である遊行寺宝物館の再整備により、中近世移行期の史料が多数発見されている。これら史料群から、関連する既存文書との比較研究が迅速に行われ、中近世移行期における関東拠点寺院としての清浄光寺が、どのような形で朝廷・公家・武家や周辺寺社と関係を持ち、拠点としての地域を確立していったのかを歴史的・仏教史的に把握し、その交流史を紐解き、点としての寺院に人が重なり線となって広域的な地域を繋いでゆく基礎を見いだす試みである。

3. 研究の方法

本研究は、関東拠点寺院である清浄光寺所蔵の新出中近世史料、及び周辺関連史料の原

本調査、デジタルカメラによる高精細撮影、詳細な目録作成、翻刻作業を行い、中近世移行期を中心とした関東拠点寺院としての清浄光寺を中心とした人とモノの交流史を解明する為の基礎史料データの構築を行った。

本研究においては、この史料群の調査方針として、一点ごとの詳細な調査、デジタルカメラによる高精細撮影、特に精査が必要な史料の翻刻作業を行い、目録データを作成していった。また本研究の対象となる清浄光寺所蔵中近世史料は、約2万点を超えるものである。この史料群を、効率よく目録化することが大きな課題点であった。そこで、平成26年度には作業の円滑なる推進のため、東京大学史料編纂所の高橋慎一郎を研究分担者として追加した。

清浄光寺以外の調査としては、平成25年度～平成27年度には東京大学史料編纂所の影写本の調査、平成26年度には秋田県公文書館、平成27年度には富山県公文書館、富山大学付属中央図書館、行田市郷土博物館などで、近世遊行上人関係の史料の調査、撮影を行った。特に、行田市郷土博物館の調査では、近世遊行上人の新出史料約300点を発見することができた。

これらの調査により、本研究の目的である交流史に関する史料としては、約2万件以上となった。史料の内容は、朝廷・公家・武家・僧等の「人」、贈答儀礼・土地・法敷等、物質的・精神的な「モノ」に関するものであった。したがって、これらの史料の詳細な目録データを構築することは、関東拠点寺院としての清浄光寺、遊行上人といった一仏教宗派としての交流史だけでなく、中近世の日本社会を明らかにする上でも有益なると考えられる。

4. 研究成果

本研究は、人とモノの交流史を解明するための基礎データの構築を中心に実施してきた。

平成25年度には、清浄光寺新出中近世史料の一点ごとの詳細な調査、デジタルカメラによる高精細撮影、及び分析に基づき、目録作成を行った。この他、東京大学史料編纂所の影写本の照合する作業も実施し、『相州古文書』等にも未収録の新出中世文書十数点の発見があった。この結果、本研究テーマと関連性が認められた史料は、中世・近世文書を併せて3,627件にもなった。本年度の研究成果の一部として、遠山元浩・皆川義孝「時宗総本山清浄光寺所蔵史料について」(『駒沢女子大学研究紀要』第20号、2013年)として発表した。

平成26年度には、前年度に引き続き、清浄光寺所蔵史料の一点ごとの詳細な調査、高精細撮影、特に精査が必要な史料の翻刻、及び分析に基づき目録作成を中心に行った。また秋田県公文書館にて遊行三十二代・藤沢十三世の普光関係史料の調査を実施したが、普

光関係史料は清浄光寺所蔵史料の空白部分を補完する史料であり、かつ中世後期から近世初頭における清浄光寺、遊行上人、時衆の交流史を解明する上で、大変貴重な史料群であることが確認された。本年度までに、本研究テーマと関連性が認められる史料は約1万件にもなった。本年度の研究成果の一部は、高橋慎一郎「中世都市論」(『岩波講座日本歴史』7巻、岩波書店、2014年)、遠山元浩「清浄光寺所蔵「後醍醐天皇像」関連史料の一考察」(『駒沢女子大学研究紀要』第21号、2014年)、皆川義孝「時宗総本山清浄光寺所蔵史料にみる東国武将と時衆」(『駒沢女子大学研究紀要』第21号、2014年)等として発表した。

平成27年度は、前年度に引き続き、清浄光寺所蔵中近世史料の詳細な調査、高精細撮影、特に精査が必要な史料の翻刻、及び分析に基づき目録作成を中心に行った。また富山県公文書館、富山大学付属中央図書館、行田市郷土博物館で、近世遊行上人関係史料の調査、撮影を行った。富山大学付属中央図書館及び行田市郷土博物館で調査した史料は、これまで翻刻紹介されておらず、特に行田市郷土博物館では300点を超える史料群であった。これらの史料は、前年度の秋田県公文書館で収集してきた普光関係史料同様に、清浄光寺所蔵史料の空白部分を補うものであった。したがって、富山大学付属中央図書館及び行田市郷土博物館所蔵の史料は、本研究の充実のためにも大変価値が高いと考えられる。現在、これらの史料の翻刻作業と詳細な分析を継続してすすめている。これらの史料の成果を踏まえた清浄光寺新出中近世史料及び関連性が高いと認められる史料は、約1万5千点を超える。その目録データの最終的な精査を行い、次年度以降にその目録データ及び史料の翻刻など研究成果を公開する予定である。平成27年度の成果としては、高橋慎一郎「醍醐寺と慈恩寺」(『西村山地域史の研究』第33号、2015年)、同「御所と邸宅」(五味文彦他編『現代語訳吾妻鏡別巻 鎌倉時代を探る』吉川弘文館、2016年)として発表した。さらに、東京大学史料編纂所ホームページにて、「時宗・京都法国寺関係史料集成(稿)」(<http://www.hi.u-tokyo.ac.jp/personal/shinichi/houkokuji.htm>)として、本研究における翻刻データの一部を公開した。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計10件)

- 遠山 元浩、皆川 義孝、時宗総本山清浄光寺所蔵史料について、駒沢女子大学研究紀要、査読無、20号、2013、1 - 13
- 高橋 慎一郎、中世都市論、岩波講座日本歴史、査読無、7巻、2014、255 - 283

- 高橋 慎一郎、中世都市鎌倉と禅宗寺院、査読無、東アジアのなかの建長寺、2014、319 - 328
- 遠山 元浩、清浄光寺所蔵「後醍醐天皇像」関連史料の一考察、駒沢女子大学研究紀要、査読無、21号、2014、27 - 44
- 皆川 義孝、時宗総本山清浄光寺所蔵史料にみる東国武将と時衆、駒沢女子大学研究紀要、査読無、21号、2014、1 - 14
- 高橋 慎一郎、醍醐寺と報恩寺、西村山地域史の研究、査読無、33巻、2015、2 - 10
- 高橋 慎一郎、御所と邸宅、現代語訳吾妻鏡別巻 鎌倉時代を探る、査読無、別巻、2016、174 - 183
- 高橋 慎一郎、鎌倉中の法令と商業、現代語訳吾妻鏡別巻 鎌倉時代を探る、査読無、別巻、2016、200 - 211
- 佐々木 俊道、浄土門の土着化に関する一考察 一村落の葬祭儀礼を中心として、駒沢女子大学研究紀要、査読無、22、2016
- 滝澤雅史、皆川義孝、富山大学付属中央図書館所蔵遊行上人関係史料について、仏教文化研究、査読無、2巻、2016

〔学会発表〕(計 件)

該当なし

〔図書〕(計 件)

該当なし

〔産業財産権〕

出願状況(計 件)

該当なし

取得状況(計 件)

該当なし

〔その他〕

ホームページ等

<https://www.hi.u-tokyo.ac.jp/personal/shinichi/index.htm>

6. 研究組織

(1) 研究代表者

佐々木 俊道 (SASAKI, shundou)
駒沢女子大学・人文学部・教授
研究者番号：90259028

(2) 研究分担者

遠山 元浩 (TOOYAMA, motohiro)
駒沢女子大学・人文学部・講師
研究者番号：60409828

皆川 義孝 (MINAGAWA, yoshitaka)
駒沢女子大学・人文学部・准教授
研究者番号：60460119

高橋 慎一郎 (TAKAHASHI, shinichiro)
東京大学・史料編纂所・准教授
研究者番号：10242158

(3)連携研究者
該当なし